

新型コロナ対応規制緩和（2022年11月）と 今後の政策展望

執筆者：水野コンサルタンシーグループ代表 水野真澄

No.101

1. 2022年11月11日・新型コロナ防疫措置合理化方針

- 濃厚接触者

【調整前】7日集中隔離 + 3日在宅健康観察

【調整後】5日集中隔離 + 3日在宅隔離

- 二次濃厚接触者

【調整前】7日在宅隔離

【調整後】二次濃厚接触者を廃止

- 高リスク区からの流出者

【調整前】7日集中隔離

【調整後】7日在宅隔離

- リスク区分

【調整前】高・中・低の3種

【調整後】高・低の2種

・高リスク区に5日連続で新感染者が出なかった場合は低リスク区へ移行

・高リスク区は住宅、ビルを単位に設定する

- 閉鎖環境での高リスク業務を終了する人員

【調整前】7日集中隔離または7日在宅隔離

【調整後】5日在宅健康観察

- 管理方式

- ・通常は行政区単位での全員PCR検査を実施せず、感染源・感染ルートが不明で市中での流行時間が長いケースで実施する

- ・1日2回、3回といった非科学的なPCR検査実施の廃止

- 航空便搭乗前検査

【調整前】搭乗前48時間以内の2回のPCR検査陰性証明を要求

【調整後】搭乗前48時間以内の1回のPCR検査陰性証明を要求

- 入国人員の陽性判定基準（PCR検査CT値）

- ・CT値35未満 = 陽性

- ・集中隔離解除時の値が35～40の場合はリスク評価を進め、既感染者の場合は3日在宅隔離中に2回の検査を行う

- 入国人員の隔離措置

【調整前】7日集中隔離 + 3日在宅健康観察

【調整後】5日集中隔離 + 3日在宅隔離

・入国地での隔離後、目的地での再隔離は実施しない

- 国際旅客便の運航停止基準

【調整前】同一便で5人以上の感染者があり、感染者が当該航空便での入国者の4%を占める場合、1週間の運行を停止。同8%の場合は2週間停止

【調整後】本措置撤廃

- 重要商務人員・スポーツチーム

・バブル方式（対象者を隔離し、外部と接触できないようにする方式）の管理実施

2. 新型コロナ管理に関する水野の予想と結果

<予想>

- ① 2022年2月（青島隔離中）・5月（ロックダウン期間中）の発信
2022年の夏から秋にかけて、中国はコロナの管理を緩めるだろう。ロックダウン終了は良い機会になる。
 - ② コロナ管理の経緯と今後（2022年8月12日公開動画）
2022年6月～7月に外国人の入国制限（省級外事弁公室での招聘状取得義務）撤廃。
2022年6月に隔離期間を短縮（上海の場合は2週間＋1週間。場所によっては1か月以上を7日＋3日に短縮）した。
中国はこれを以て規制緩和したと思っているのではないか。
もう少しの緩和は年内にありうるが、根本的な規制緩和（ゼロコロナ政策の撤廃）はなかろう。
- 上記予想の背景と理由
②の予想は①から若干トーンダウンしている。①の時点では、新型コロナの状態変化（重篤性が薄れてきた）を理由に、ゼロコロナ政策の停止も有るかと思っただが、上海市のロックダウン後の状況を見て、年内の根本的な方針転換は無かろうと、考え方を修正。

3. 新型コロナ規制緩和の経緯（2022年）

① 招聘状（PU）免除

Zビザ（駐在用ビザ）・Sビザ（配偶者・子女等に発給されるビザ）・・・2022年6月6日より
出張ビザ（Mビザ・Fビザ）・・・2022年7月1日より。

⇒ 2020年3月28日の外国人に対する暫定的な入国禁止に伴う措置（PU）であったため、
この免除は**外国人入国禁止方針の撤廃**を意味する。

② 隔離期間短縮

2022年6月27日に、**集中隔離7日間＋健康観察3日間**に（**联防联控機制総発[2022]71号**）。
2022年11月11日に、**5日間集中隔離＋3日間在宅隔離**に（**联防联控機制総発[2022]101号**）

ゼロコロナ政策に関するドラスティックな方針変更は、年内にはなかろうと予想。